

笑顔いっぱい

やさしさの花 がんばりの花 げんきの花

＜校長室だより＞

令和8年2月3日

NO. 7

豊橋市立福岡小学校長
山 田 浩 一

令和8年が明けて3学期が始まり1か月が経ちました。各学年とも大きな行事はないものの、毎日の授業や休み時間等で子どもたちの「やさしさの花」「がんばりの花」「げんきの花」がたくさん咲いていて、とてもうれしく思っています。

今年度もあと残り1か月半となりました。子どもたちが次の学年に向け、前向きな気持ちでがんばっていけるように取り組んでいきたいと思っています。



令和8年元旦 愛知大学方面から昇る初日の出

3学期始業式をしました

1月7日の3学期始業式では、「3学期にがんばりたいこと」について代表児童が発表しました。代表児童は2年：川村仁良 さん、4年：高野陽友 さん、6年：長谷川雄星 さんです。どの子も堂々と自分の思いを発表でき、すばらしかったです。

寒さに負けず かけ足・なわとびがんばるよ

「エンジョイ・ランニング」を大切にして体力づくりを図っていくこととし、今年度も持久走大会を中止にして休み時間を使った「かけ足週間」や体育の授業での持久走に取り組みました。



今年度は体力づくりのためになわとびにも力を入れています。なわとびは単純な運動ですが、体力づくりにはとても効果のあるものです。市内の小学校全体で「とよはしつ子 なわとびフェスティバル」の取り組みをしており、本校もそれに参加をしています。市で統一された「なわとびカード」を使って自分の記録を伸ばすことに加え、好記録を市に報告し表彰することで、さらにやる気をもたせようというわけです。今校内では、学年ごとに現在の最高記録が掲示されています。

下の写真は2月2日（月）現在の最高記録です。授業参観にお越しになった際、ご覧ください。

1年生	名前	記録
まえあやとび	なかむら みこと	41
まえこうさとび	なかや しおり	37
にじゅうとび	ごみよすけ	3
うしろあやとび	ながお (あい)	15
うしろこうさとび	ながおしおり もりす	4
はやぶさ		

2年生	名前	記録
まえあやとび	ほきい ゆの	85
まえこうさとび	おく いろは	112
にじゅうとび	わたなべ ひろと	60
うしろあやとび	いとう せいすけ	45
うしろこうさとび	おく いろは	60
はやぶさ	とだ ゆうだい	7

3年生	名前	記録
まえあやとび	木下 晃希	118
まえこうさとび	森下 律	55
にじゅうとび	白井 健登	46
うしろあやとび	森下 律	70
うしろこうさとび	岩見 淑音	50
はやぶさ	伊東 裕菜	8

4年生		
わざの名まえ	名まえ	回数
二重とび	林 俊太	80
はやぶさ	北川 梨	15
後ろ二重とび	北川 梨	15
後ろはやぶさ	林 俊太	1
交差二重とび	北川 梨	10
三重とび	杯 優太	1

5年生		
わざの名まえ	名まえ	回数
二重とび	圭悟	82
はやぶさ	はるま	64
後ろ二重とび	圭悟	32
後ろはやぶさ	圭悟	10
交差二重とび	はるま	16
三重とび		

6年				
男子	名前	回数	女子	
二重	後藤 姫汰	158	小高 葵生	120
はやぶさ	後藤 姫汰	100	高木 莉衣奈	65
後ろ二重	長谷川 雄星	67	高木 莉衣奈	55
後ろはやぶさ	長谷川 雄星	73	高木 莉衣奈	35
交差二重	後藤 立凪汰	27	高木 莉衣奈	24
三重	長谷川 雄星	6	高木 莉衣奈	14

「自分の考えを言葉で伝え、自分で決める経験が大切」

ネット記事で参考になる文章を見つけました。わたし自身も子をもつ親として、保護者のみなさんにぜひ共有したいと考え、紹介させていただきます。本文は大変長いので、AIを活用して要約をし、そのまま載せます。（要約を確認したところ、よくできていました）※下線は山田による

最近、子どもには「自分で考えて行動する力」が大切だと言われるようになりました。しかし、子どもを大切に思う気持ちから、親が先回りして手助けしすぎてしまうと、その力が育ちにくくなることがあります。養護教諭として長年、学校で子どもたちと向き合ってきた桑原朱美さんは、「親の関わり方が、子どもの育ちに大きく影響します」と話しています。大人が何でも察してしまうと、子どもは考えたり伝えたりする力を身につけにくくなってしまいます。

小学生の中には、「トイレに行きたい」「これが分からない」と言えなかったり、「どうしたい？」と聞かれても決められなかったりする子もいます。その理由の一つが、親がいつも代わりに決めてきたことです。幼いころは親の助けが必要ですが、小学生になると、少しずつ「自分のことは自分で決める」経験が大切になります。いつまでも親が先に動いてしまうと、子どもは失敗を経験できず、自信を持てなくなってしまいます。自分の考えが伝わるように話すことは自主性を育てる第一歩です。

親が手や口を出しすぎると、子どもは「どうしたらしいか分からない」「間違えたら怒られる」と感じ、困っても助けを求められなくなることがあります。家ではおとなしいのに、学校では乱暴になってしまふなど、心のバランスを取ろうとする子もいます。

では、どのように関わればよいのでしょうか。まず大切なのは、親の心配と子どもの気持ちを分けて考えることです。「失敗しないか心配」という親の気持ちだけで動くのではなく、子どもが「手伝って」と言うまで見守る時間を持ちましょう。「明日の準備はママがやっておくから」ではありません。失敗は、子どもが学び、強くなるための大切な経験です。

また、元気に発言する子だけが「よくできている子」ではありません。目立たなくても、係の仕事をコツコツ続けたり、自分なりに考えて行動したりしている子もいます。そうした姿に気づき、「よくがんばったね」と声をかけることが、子どもの自信につながります。

毎日の生活の中では、「宿題と遊び、どちらを先にする？」など、小さなことを子どもに決めさせてみましょう。少しくらい失敗しても大丈夫です。その経験が、「次はどうしよう」と考える力を育てます。また、洗濯物をたたむ、食事の準備を手伝うなど、家のお手伝いを任せることも、「自分は役に立っている」という気持ちを育てます。

子どもの友達関係に介入しすぎることも慎みたいものです。子ども同士のトラブルがあったときは、すぐに判断せず、最後まで話を聞くことが大切です。子どもから聞く話は、うそをついているつもりがなくても大事な情報が抜けることはよくあることです。相手の子を責める前に「何があったのか」「どう感じたのか」「これからどうしたいか」を一緒に整理しましょう。本人を叱る場面でも「反省しないさい」ではなく、「次はどうする？」と前向きに話すことで、子どもは自分で考える力を伸ばせます。

学校に行きたがらないときも、無理に理由を聞き出そうとせず、生活のリズムを整え、安心できる環境を作りましょう。学校に行くことよりも、子どもが心と体を元気に保つことが何より大切です。

最後に、桑原さんは「親そのものが、子どもにとっての環境です」と伝えています。親が完璧である必要はありません。うまくいかないことがあっても、「それでも大丈夫」と前向きに過ごす姿を見せてることで、子どもは安心して挑戦できるようになります。親が人生を楽しむ姿こそが、子どもが自分の力で歩いていくための、いちばんの土台になるのです。

「ハートマッスルトレーニングジム」代表理事 桑原朱美氏の文章をAIにより要約